

2016年4月8日

NPO 法人エコライフはままつ様

青年海外協力隊マラウイ派遣
26年度2次隊
青少年活動 浅野央与

楽器受領の御礼・活用報告書

初めまして、青年海外協力隊としてマラウイマチンガ県ンサナマの教員研修センター (Teachers Develop Center;以下 TDC) に配属されております、浅野と申します。この度は、とても素晴らしく貴重な楽器のご支援をいただき、誠に有難うございました。任地紹介を含め、表題の件を下記の通りご報告申し上げます。

1. マチンガ県ンサナマについて

マチンガ県はマラウイの南部に位置し、山や川などの自然に恵まれた場所です。ナショナルパークがあり、象やカバ様々な動物が多く見られ、外国人観光客も散見されます。私の任地であるンサナマは、丘の上にあるお米が有名な町です。人々との触れ合いが多くある温かい場所です。

2. マチンガ県ンサナマ TDC について

日本でいう市区町村の教育委員会の様な役割。ンサナマ地区にある 14 校のプライマリースクール、1 校のセカンダリースクールを管轄しています。

3. 私の要請・学校・教員が抱える問題点

マラウイには「Expressive Art (表現芸術)」という音楽・図工・体育・美術を一つにした科目があります。この科目の普及浸透が私の活動要請となっています。

本来、実技的な内容で授業を進めるのが望ましいのですが、セオリーのみを教える、あるいは、授業自体をスキップしてしまうことも散見されます。なぜなら、そもそも資材が不足しており、かつ教員自身も当該科目をまともに受けてこなかったのが知識もあやふやで、苦手意識がとてもあるように見受けられます。

4. 楽器受領数

- ✓ 鍵盤ハーモニカ ; 25 台
- ✓ アルトリューダー ; 35 本

5. 先生達の反応

2月に実施されたンサナマの公立13校の校長会議において、鍵盤ハーモニカ1台、アルトリコーダー1台を配布いたしました。みなさん初めて見る楽器に大興奮でした。普段クールな校長先生達が無邪気に楽器を吹き始めるという、とても微笑ましい状況でした。

そして、ミーティング終わりに恒例のお祈りの言葉では、「素晴らしい楽器を与えてくれた日本のみなさん、そして神に心から感謝します」と仰っていました。

6. 活用方法

扱いがわからないのでは宝の持ち腐れなので、知識を定着させるための研修プログラムを実施。各学校から1-2人代表の先生を選出していただき、2月から7月迄、隔週で木曜日に音楽のレッスンをしています。通常、マラウイの文化として、研修はアローワンス（手当金）やリフレッシュメント（飲み物やお菓子）といったものがないと誰も参加しません。ですが、今回私の研修はアローワンスやリフレッシュメントがないのにも関わらず、先生達がしっかりと参加して下さいます。やはり実際に楽器に触れ、学ぶことができるというのが彼らにとっても有意義で楽しいようです。学んだ後は、その先生達が各学校で教員研修を開催し、同僚の先生達にスキルをシェア。そして、実際に授業で子供たちに教えるという形を取っていきます。

7. 考察・感想

先生達が楽器を手にしたときの嬉しそうな顔。私は一生忘れられません。私たち日本人が当たり前習ったことがあって、ほとんどダンスの中に置き忘れ去られている物。それらが遠いアフリカ大陸、マラウイの人々に喜ばれて、満面の笑みをもたらす。これほど素晴らしいことはないと思います。是非その顔を直接見ていただきたいのですが、難しいので写真をたくさん掲載させていただこうと思ったのですが、パソコンの不調かつSDカードの故障によりデータが消えてしまいました。大変申し訳ございませんが、楽器受領時の写真のみの掲載とさせていただきます。誠に有難うございました。



(楽器受領時の私浅野と、TDC 同僚)